

DECISION

Protest

Request No.: 46

Heard Jointly With Number(s): 52

Event: 2022 全日本学生ヨット選手権大会 87th ALL Japan Intercollegiate Sailing Championship Race Number: 7
Hearing Schedule: 2022-11-05 17:40

PARTIES AND WITNESSES

Request No.: 46: 国際470級 - 国際470級 - JPN 4692 - 21 - 東京大学

国際470級 - 国際470級 - JPN 4814 - 68 - 太一 上野

Request No.: 52: 国際470級 - 国際470級 - JPN 4607 - 30 - 神奈川大学

国際470級 - 国際470級 - JPN 4692 - 21 - 東京大学

Witnesses: 艇30の証人として艇68のスキッパー錦見昇之介氏が出席した。

VALIDITY

Objection to Jury: No

Within Time Limit: Within Time Limit

Incident Identified: Yes

Proper Hail: Protest hailed

Red Flag Displayed: Not required

Decision: Request Valid

PROCEDURAL MATTERS

ケース46, 52共に調停が成立せず審問となった。

17:40審問開始

19:00審問中断

19:15 審問再開。この際、本件は、ケース52と密接に関連したインシデントであると判断し、両審問をRRS 63.2 に従って同時に行うこととした。パネルに渡辺委員を追加した。

ケース52は、RRS 61.3で求められている抗議締切時刻までに、レース・オフィスに提出されなかった。しかしながら、抗議書は時間内に準備できていたが、証人の確認に時間を要した（証人が抗議者の指定した時間までに返信しなかったため直接確認を行ったなど）とのもっともな理由があったので、RRS61.3に基づき、PCは締切時刻を延長した。

FACTS FOUND

470級第7レース風速は5ノット、波は30cmであった。

第5レグにおいて艇68と艇21、艇30は第3マークに向かってランニングで帆走していた。

艇30が第3マークのゾーンに到達したとき、艇21はその風上側1艇身の位置にあり艇30のクリア・アスターンであった。

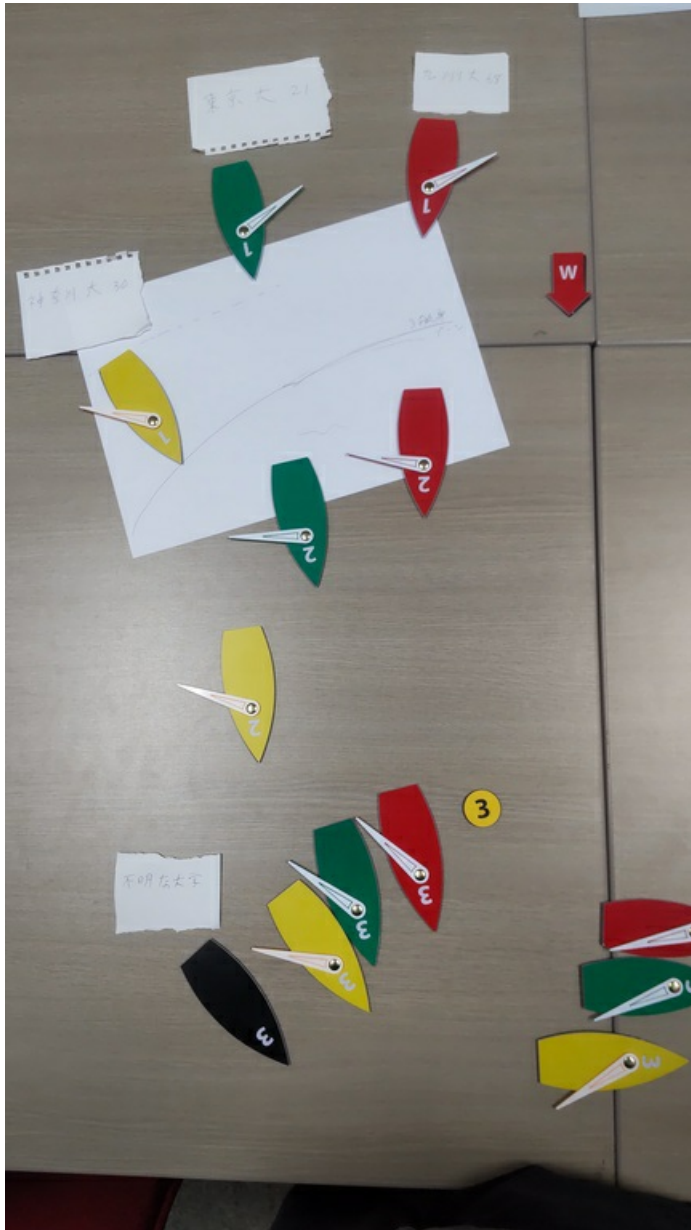
艇21はゾーンに到達したとき、艇68とオーバーラップの状態にあった。

艇30の第3マーク回航時に艇21は、艇30の内側に侵入し、艇21のバウのスターボサイドと艇30のポートサイドのサイドステイ付近のガンネルが接触した。なお、艇21が艇30に接触したときに、艇30の下側に他艇がいたため、接触の回避ができなかった。艇の損傷はなく、両艇ともペナルティを履行しなかった。

艇68と艇21が第3マークを回航後、艇21は風下側から艇68にオーバーラップした状態となり、艇21はラフィングをした。

艇68は艇21との接触回避に応じようとしたが、失速していたため艇68と接触した。

なお、両艇に損傷はなく、ペナルティの履行はなかった。



DSC_0476.JPG 1.62 MB

Diagram: Protest Committee diagram attached

CONCLUSIONS AND RULES THAT APPLY

Rules: 18.2(b), 16.1

1. 艇30がゾーン内に到達したときに艇30に対してクリア・アスターンであった艇21は艇30にマークルームを与えず、艇21はRRS 18.2(b)に違反した。
2. 航路権艇の21はコースを変更する際に、68に避けているためのルームを与えなかったため、RRS 16.1に違反した。

DECISION

Date & Time: 2022-11-05 20:55 JST

艇30から艇21に対する抗議を支持し、艇21による艇68に対する抗議を却下する。
第7レースにおいて艇21を失格とする。

PROTEST COMMITTEE

Chaired By: Takeshi Hosokawa (JPN)

Committee Members: Shota Utsumi (JPN), Yoji Watanabe (JPN), Tsunagu Enami (JPN)